

Letter for Members 秋 特別号 2004

Japan
Prosthodontic
Society

日本補綴歯科学会

Japan Prosthodontic Society

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpds/>

発行人 大山 喬史 編集 広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 (財) 口腔保健協会
Tel 03-3947-8891 Fax 03-3947-8341

平成 16 年 10 月 14 日発行

コンテンツ

支部活動トピックス1,2	国内関連学会報告7,8
第 111 回学術大会の広報委員会 アンケート報告2~4	支部学術大会報告8~10
第 111 回学術大会認定医研修会 アンケート結果4,5	関連学会案内10
国際渉外委員会よりお知らせ5	次回学術大会案内10
国際関連学会報告5~7	今後の学術大会案内10
	支部会のご案内10,11
	第 112 回学術大会フォーカス11,12

支部活動トピックス

市民フォーラム「健康・噛む・美」開催 支部活動への執行部の協力

市民フォーラム「健康・噛む・美」が、平成 16 年度日本補綴歯科学会中国・四国支部総会および第 30 回学術大会（大会長：本田常晴，当番校：徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部咬合管理学分野，平成 16 年 9 月 5 日開催）の前日 9 月 4 日に、高知新阪急ホテルで開催された。

現在、学術大会は年 2 回の開催から年 1 回の開催を目指して、精力的にいろいろな準備が進められている。年 1 回化した場合、支部活動への執行部の協力が期待され、さまざまな方法や形が検討されている。また、学会が法人化すると、その学会に公益性が求められ、学会に対する国民の期待は大きい。

今回の市民フォーラムは、執行部より 2 人の強力な講師を招いて開催された。大山喬史会長と、もう 1 人は中国・四国支部の理事でもある赤川安正副会長であった。会場もアクセスの良い高知市内の中心部で、中尾勝彦支部長を座長として、午後 1 時から始まった。



中尾支部長（左上），大山会長（右上），
赤川副会長（下）

テーマは「健康・噛む・美」であり、「よく噛んで健康に、美しく」大山喬史教授「口から始まるからだの健康」赤川安正教授の内容の講演で会場を魅了した。大山会長から「卑弥呼の歯・顎一ぜ」の標語の紹介、そして、「健康な歯、歯並びをもつことがわれわれの生活をどれだけ豊かに、楽しいものにしてくれるの

か」赤川副会長から、超高齢社会を迎えている現在、健康で長生き（健康長寿）をするために「口の健康を保つことが本当に重要なのです」と熱いメッセージが一般市民に送られた。

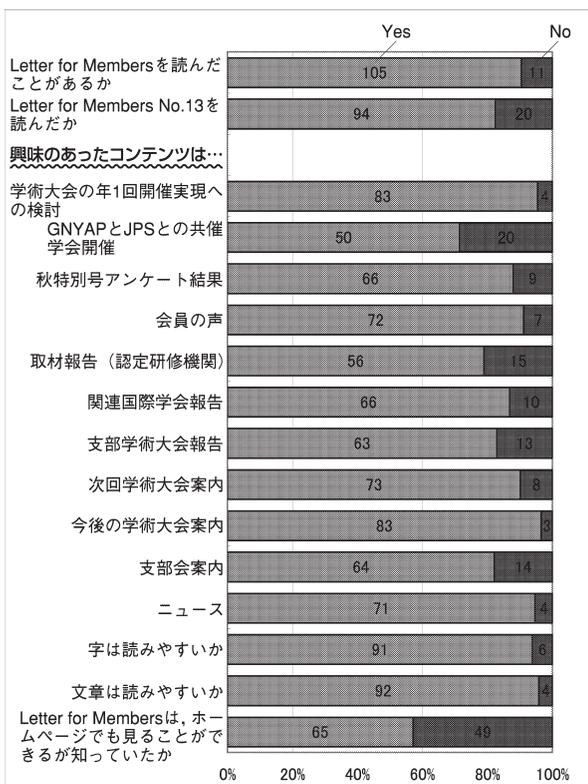
成功裡に終わった今回の市民フォーラムは、これからの日本補綴歯科学会の方向を示したエポックメイキングなものであった。

(広報 貞森)

第111回学術大会の広報委員会 アンケート報告

「第111回学術大会抄録集綴じ込みアンケート」および学術大会時発刊の「Letter for Members 春特別号 2004 アンケート」によせられた約120名の会員からのさまざまなご意見やご質問、それらに対する回答を以下に示す。

第111回大会抄録綴じ込みアンケート結果



抄録集綴じ込みアンケートから

- 取り上げて欲しいコンテンツ
 - ・認定医としての活動
 - ・補綴的な勉強会等の案内
 - ・他の学会との関係について〔Joint meetingの開催（国内）〕

- ・共催の国際学会の演者は、若い会員も等しく氏名を載せてほしい。貴重な協力者です
- ・各大学補綴診療室の見学記
- ・名誉会員の方の現状

回答（広報委員長）

ご意見を参考に検討いたします。

- ・会員からの意見とそれへの回答
- ・無記名で可となる「目安箱」のようなものを設置して下さい

回答（広報委員長）

広報が学術大会時に発行する「ニューズレターLetter for Members 特別号」に会員の意見や希望を記入して投函できるアンケートがあります。是非多数のご意見をお願い致します。いただいた意見は委員会で検討され、適任の委員会メンバーが回答しています。補綴誌の依頼論文カラーページ2頁までの学会負担は会員要望から実現したものです。

- 認定医資格取得によるメリット（法人化後の専門医についても）

回答（認定審議会委員長）

大学においては、認定医、指導医資格は教員の選考に際して大きな判断材料の1つです。開業医の場合、直接的なメリットは今のところ見当たりませんが、本学会の法人化が認められれば状況は変わると思われます。すなわち、法人化後に厚労省により本学会の専門医制が認められれば、それまでの認定医が専門医に読み替えられる可能性があります（他学会ではほとんど

Happy Smiles
Heartful
Communication

心身ともに健やかに…
これがモリタの願いです

株式会社モリタ 株式会社モリタ製作所 株式会社モリタ東京製作所
www.dental-plaza.com

そうしている)。

専門医制の目的は以下のとおりです。

- ①当該歯科医師の歯科医療背景を患者に広告する。
- ②歯科医療の質の向上をはかる。
- ③国民のセカンドオピニオン要求の参考に資する。
- ④歯科医師の医療に対する努力目的を提示する。
- ⑤平成18年から義務化の歯科研修医制度における指導医資格条件の1つに指定される。
このなかで、特に専門医の資格をもっていることの広告が許されることは、さまざまな意味で大きなメリットになるものと思われます。

- 現行の抄録集の裏表紙の広告について検討して下さい

回答 (編集委員長)

編集委員会では抄録集の広告全般について検討しています。

- どのようにして Letter for Members をもらえるのか知りたいです

回答 (広報委員長)

号数のついた Letter for Members は補綴誌綴じ込みで、特別号は学術大会時、会場で入手できます。また過去のニュースレターはホームページからご覧になれます。

- 認定医ケースプレゼンテーションである期間(年)の優秀プレゼンテーションの公表

回答 (認定審議会委員長)

認定医のケースプレゼンテーションは、申請者が認定医の資格を備えているかを問う試験の場であり、優秀なプレゼンテーションを選考し、表彰する場ではありません。

- ポスター発表に関して

- ・盗撮が多いのに驚いている
- ・外国の先生も勿論だが、若い先生に撮影を指示している50代の先生もあり、モラルの低下がはなはだしい

回答 (学術委員長)

参加者の良識ある行動をお願い致します。

- その他の意見は以下のごとくです

- ・以前よりもニュースレターに(補綴誌よりも)親近感を感じていますので委員の方々続けてください
- ・HPにニュースレターを出しているのであれば費用軽減で印刷物はいらないのでは(見てはいなかったが)
むしろHPに使える情報を充実させてほしい(演題申込みを一括してWeb上で行うとか)
- ・会員と本部のQ & Aが面白い
- ・文字がやや大きく、行間が狭いように思います

Letter for Members 春特別号 2004 切り取りアンケートから

- 学術大会に関して

- ・実施日について、日曜日の半日使って開業医が参加しやすいようにしてはどうでしょうか

回答 (学術委員長)

実施会場の関係で、常に日曜日の会場が確保できるか否かには問題が存在致します。

しかし、日曜日にはご開業の先生の参加が期待できますので積極的に考えていきたいと思えます。それと同時に、ご開業の先生方に魅力のあるプレゼンテーションを会員の先生方にはお願い致します。

- ・学術大会の事前登録者数と実質参加者数のギャップについて、なぜここまで実質的な参加者が減っているのか
- ・国際セッションのレベルが低い。KAPへ送る人は課題口演受賞者にしてはどうでしょうか

Tokuyama Dental
「ソフト感の持続」と「タフな接着」を両立!
義歯床用長期弾性裏装材(直接法/間接法)
ソフリナータフ
お! 痛くない!
標準医院価格 ¥18,000/セット
医療用具承認番号 Z1400LZZ00297000
※専用ダイスベンダー「トクヤマダイスベンダー」は別売です。
株式会社 トクヤマデンタル <http://www.tokuyama-dental.co.jp>
インフォメーションサービス ☎0120-54-1182
受付時間(土・日祭日を除く) 10:00~12:00 13:00~16:00
●札幌 TEL 011-850-2340 ●仙台 TEL 022-717-6444
●東京 TEL 03-3835-7201 ●名古屋 TEL 052-932-6851
●大阪 TEL 06-6386-0700 ●福岡 TEL 092-412-3240

回 答 (学術委員長)

ご意見として承っておき、理事会へ発題したいと思います。

- ・特別講演と一般口演は重ねない方がよい
- ・第2会場をもっと大きくしてほしい
- ・ポスター会場がせまい

回 答 (学術委員長)

以前より特別講演と一般口演はできるだけ重ならないように配慮しています。今回は企画の関係でやむなく重なる日程となりました。また会場のキャパシティ確保について、主管校サイドは最大限の努力はしていますが、理想どおりにならないことがあります。

- ・懇親会と Party がクローズであることを事前にアナウンスしてほしい

回 答 (庶務担当)

ご意見として承りました。

●日本補綴歯科学会に対して

- ・保険診療に対して学術団体としてもっと積極的に提言していくべきではないでしょうか

回 答 (医療問題検討委員会委員長)

診療報酬を含め、厚生行政に対して提言していくことは学会が担っている社会的責任の1つと考えます。

診療報酬の2年に1度の改定に先立って、歯科医師会とその下部団体である日本歯科医学会は加盟学会に対して、診療報酬に関する打ち合わせ会を開催いたします。日本補綴歯科学会も医療問題検討委員会が学会としての意見をまとめ、要望書を提出しております(今期も“Letter for Members No. 12, 2003”で報告したとおりの項目を要望として提出しております)。その一方、歯科医師会のなかには厚生労働省の保険診療の種々の疑義事項の諮問に対して随時答申する疑義解釈委員会というものがあり、日本補綴歯科学会も委員を出し、意見を述べております。ただご指摘の通り、診療報酬に関して日本補綴歯科学会は受け身というか鷹揚に構えていたところがあったかもしれません。

われわれの考え方を診療報酬に反映していくためには、非公式、あるいは公式の窓口である日本歯科医学会や疑義解釈委員会を通して強く

主張し続けることはいうまでもありません。しかし、今後、保険診療項目の新規項目の追加、既存項目の改善をするためには、① 普及性、② 有効性、③ 効率性、④ 安全性、⑤ 技術的成熟度、⑥ 倫理性・社会的妥当性、⑦ 予測される医療費への影響をきちんと説明できるものでなければなりません。そのためには、卒前、卒後の教育現場での改善、説得力のある客観的なデータの収集と雑誌への掲載、一般開業医および国民に対しての広報活動が必要ではないかと考えます。そのような観点から学会および学会員の日々の活動を行っていかねばならないと感じております。

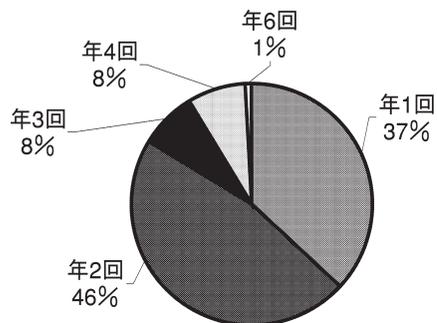
●広報委員会に対して

- ・開業医により親しまれる広報を考えていただきたい。Letter for Members はすばらしいと思います

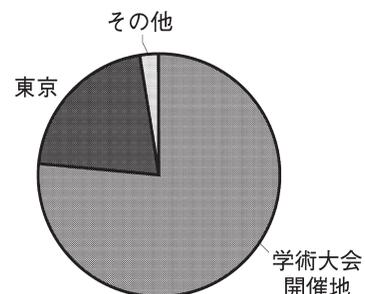
**第 111 回学術大会認定医研修会
アンケート結果**

第 111 回学術大会時に行われた認定医研修会に対するアンケート結果を示す。

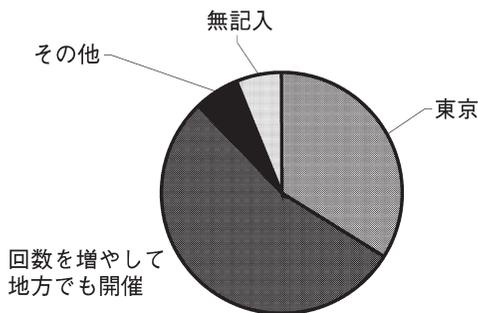
認定研修の開催回数について



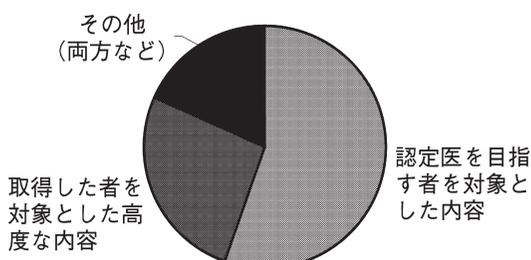
認定医研修会の開催地について
(年1回の方)



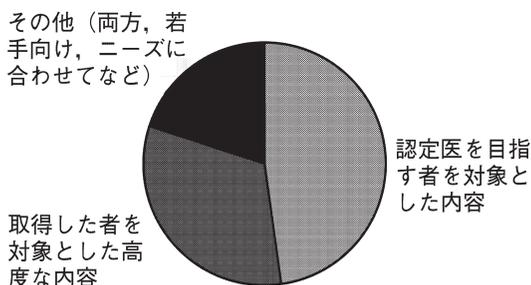
認定医研修会の開催場所について
(複数回の方, 学術大会開催地以外に)



認定医研修会に求める内容について
(年1回の方)



認定医研修会に求める内容について
(年複数回の方)



国際渉外委員会よりお知らせ

国際渉外委員長 古谷野 潔

●KAP (The Korean Academy of Prosthodontics : 大韓補綴歯科学会) との学術交流について

平成 16 年 5 月 22 日に第 2 回の Joint Meeting が第 111 回日本補綴歯科学会と共催され, 口演は KAP 5 題, JPS 4 題の計 9 題, ポスターは KAP 9 題, JPS 8 題の計 17 題の発表が行われた. 懇親会には KAP 役員, 会員 54 名が参加し交流を深めた.

今後の交流については, Joint Meeting は 2 年に 1 回の開催とし, 次回の第 3 回は 2006 年ソウルにて開催予定である. なお Joint Meeting 時の学会登録料はお互いに無料とすることを確認した.

●アジア補綴学会

・第 4 回学術大会: 2005 年 8 月 9~11 日, バンコク (タイ) にて開催予定

・第 5 回学術大会: 2007 年日本にて開催予定

●ICP (International College of Prosthodontics)

・第 11 回学術大会: 2005 年 5 月 25~28 日, クレタ島 (ギリシャ) にて開催予定

・第 12 回学術大会: 2007 年日本にて開催予定

●2nd International Congress on Advanced Digital Technology in Head and Neck Reconstruction

2005 年 3 月 10~13 日, バンフ (カナダ) で開催予定

JPS が supporting organization となっている. www.res-inc.com/advanced_technology.htm を参照.

国際関連学会報告

第 6 回国際顎顔面 リハビリテーション学会

2004 年 6 月 17~19 日にわたりオランダのマーストリヒト市で, 第 6 回国際顎顔面リハビリテーション学会が開催された. 今回は 24 カ国から 240 名ほどが参加し, 総演題数 99 であった. 参加者は開催地のオランダが一番多く, ついで米国, タイ, 日本の順であった. この国際学会は 2

e-Ha

イーハ



Heraeus

蘇る、審美・機能
そして卓越した操作性
まったく新しい人工歯

健保適用硬質レジン歯
許可番号: 27BY6021

ヘレウス クルツァー ジャパン 株式会社
フリーダイヤル: 0120-230-331 | 受付時間: 10:00~16:00 / 土・日・祝日も録音
<http://e-ha.heraeus-kulzer.co.jp/>

年ごとに北米，アジア，欧州の順で開催されている。1994年米国カリフォルニア州のパーム・スプリングスで第1回が開催され，その後韓国のソウル，イタリアのトリノ，ハワイ州カウアイ島，日本の沖縄で開催された。1994年の第1回学術大会から参加している日本人は日本大学の石上友彦教授と筆者だけということで，広報委員会から今回の学会報告の依頼が筆者にあったと考える。



今回はこれまでの学会と雰囲気が多量異なっていた感じがした。それはプログラムの構成からも感じられた。第1回，第2回大会では上顎の欠損，舌・下顎の欠損，顔面欠損に対する外科的再建と補綴のチーム・アプローチによる治療，ならびに放射線治療後の補綴治療の問題点などを中心にプログラムが構成されていた。回を重ねるうちにインプラント中心の治療法や機能回復の評価法が主題であったが，ここ数年はTissue Engineeringが注目されている。今回，際だったテーマは「Maxillofacial Prosthodontics—Quality of Life and Patient Satisfaction」であった。本年5月東京で開催された第111回大会の特別講演で早稲田大学の山崎氏による「美しさをめぐる心理」を拝聴し，患者さんの心理は複雑で捉えきれないと感じていた筆者にとって，現在の顎顔面補綴治療を含め補綴治療のゴール設定の難しさを痛感した。また22名が参加したポスター・コンペティションでは5名が最終選考に残り，東京医科歯科大学の隅田由香先生と同じく佐々木麻里子先生が2位，同じく門田千晶先生が3位に入賞した。

今後，この国際学会は2006年に米国マイアミ，2008年にタイのプーケットでの開催が予定されている。日本人の参加も多い，こぢんまりとした学会なので顎顔面補綴に興味のある会員の参加をお薦めする。



リポーター 久保吉廣（徳島大学医学部・歯学部附属病院特殊歯科総合治療部）

第8回アジア歯科審美学会・ 第15回日本歯科審美学会併催

平成16年7月16日（金）から19日（月）の4日間にわたり，第8回アジア歯科審美学会と第15回日本歯科審美学会の共催学術大会が，千田彰大会長（愛院大）のもと，名古屋国際会議場とグランコート名古屋において開催された。

大会総合テーマを『Sciences in Esthetic Dentistry（審美歯科を科学する）』とし，多彩な内容のプログラムが組まれていた。

基調講演では，「Esthetic Dentistry Significance and Goal」のテーマで，石橋寛二 JAED 会長，Ko Seok-Hoon IFED 次期会長ならびに Philippe Gallon IFED 会長が，審美歯科に対する期待やその意義と目的，さらに学会の役割について講演された。

特別講演では，Dr. Eric van Dooren による「インプラントと天然歯に審美性を利用する」，Dr.

NC VERACIA

ナノテクノロジーと
機能的形態が融合した 新人工歯 **硬質レジン歯**

NC Veracia

医療用具承認番号 21100BZZ00751

NC ベラシア アンテリア

硬質レジン歯（前歯用）1組…¥780 色調：A1, A2, A3, A3.5, B2
形態：上顎5形態，下顎3形態

医療用具承認番号 21200BZZ00272

NC ベラシア ポステリア

硬質レジン歯（白歯用）1組…¥1,040 色調：A2, A3, A3.5, B2
形態：上下顎各2種

価格は2002年11月現在の標準医院価格（消費税抜き）です。

世界の歯科医様に貢献する
株式会社 松風
本社●〒605-0983京都市東山区福福上高松町11-TEL(075)561-1112(代)

Eric C. Reynolds による「エナメル質の再石灰化：CPP-ACP の抗う蝕作用」そして Dr. Makoto Suzuki による「審美的レジン接着修復と臨床での限界」の3講演があった。

アジアフォーラムでは、「アジアにおける審美歯科の意義」と「アジア発の審美歯科」のテーマのもと、それぞれアジア各国から国の特色が感じられる5、6題の講演がなされた。

シンポジウムでは、メインテーマを「審美歯科への実践的で科学的なアプローチ」とし、“審美歯科の修復的な手法：歯冠色修復”，“審美歯科の予防的なアプローチ”，“審美歯科の修復的な手法：インプラントとリハビリ”，“QOL 維持，美しい加齢のための審美歯科”の4つのサブテーマで、各国からそれぞれ3～5題の講演があった。

スペシャルセミナーでは、技工士セッションの講演「セラミック・レストレーションのゆくえ」と衛生士セッションの講演「生涯に渡る口腔の審美・発音・機能維持のための歯科衛生士の役割」ならびにシンポジウム「QOL を高めるための歯科衛生士の役割」が行われた。

市民公開講座では、「人の移動と歯の変化」について大野紀和先生（愛院大）が、「アジア人の顔」について馬場悠男先生（国立科学博物館）が講演された。

ランチョンセミナーやイブニングセミナーでは、多くのメーカー協賛のもと、新技術や新商品に関する講演が行われた。

一般発表はすべてポスター発表で、45題の発表があり、そのうち9題がAAADからの発表であった。3日目に行われたディスカッションタイムでは、熱気のこもった討論が行われた。

学会初日に開催されたウェルカムレセプションに始まり、2日目に行われたガラディナーではたくさんの方から大勢の参加者が親睦を深めていた。蒸し暑い夏で有名な名古屋ではあるが、熱気に溢れた討論ですます暑くなった4日間であった。

(広報 濱野)

国内関連学会報告

第23回日本歯科医学教育学会

快晴の7月1日（木）、2日（金）、新潟県の朱鷺メッセにおいて、山田好秋大会長（新大院）のもと第23回日本歯科医学教育学会が開催された。



特別講演が2題「大学評価について」（大学入試センター理事長・荒川正昭先生）、「Dental Education in the 21st Century: the UK approach」（英国 King's College 歯学部長 Prof. Nairn Wilson）、シンポジウムが2セッション I. 「PBL-チュートリアル導入と実践」（オーガナイザー：前田健康教授（新大院）シンポジスト：高橋優三教授（岐阜大）、中村雅典教授（昭和）大）、小野和宏助教授（新大）、II. 「臨床研修必修化を控えた卒前臨床実習のあり方」（オーガナイザー：俣木志朗教授（東医歯大院）シンポジスト：辻本好子先生（NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML）、平田創一郎先生（厚生労働省）、興地隆史教授（新大院））さらに、口頭発表が36題、ポスター発表が101題であった。本学会の事前登録は Web で行うことができ、発表も全て PC で行われ大変スムーズな大会運営だった。また、OSCE・共用試験の導入や臨床研修の必修化を目前に控え、活発なディスカッションが会場のあちらこちらで行われた。今年の猛暑と同様に、熱気に満ちた新潟の2日間であった。

(広報 北川)

GC



柔らかいまま & 清潔なまま
盛りやすい & はがしやすい

審美性に優れた「ライブピンク」と
厚みの差を判別しやすい「ホワイト」の2色。

独自の特殊構造とコート材により従来の弱点を克服!

柔らかさが、かつてないほど持続します。	スピーディに盛り上げられます。
良好な表面性状、清潔な状態を保ちます。	スムーズにはがせます。

コート材でしっかり接着。

暫定裏装用レジン
ジーシー ティッシュコンディショナー

第 21 回日本顎顔面補綴学会総会

8月26日(木)、27日(金)、福岡市の福岡県歯科医師会館にて、松浦正朗教授(福歯大)を総会長に第21回日本顎顔面補綴学会総会が開催された。一般38演題ではいずれも、この学会特有の熱く激しい質疑応答が繰り広げられた。また、2つの特別講演では上海第二医科大学形成再建外科の劉偉(Liu Wei)教授が”Application of tissue engineering technique in the repair of maxillofacial defect”と題し、香月武名誉教授(佐賀医大)が「顎顔面補綴の20年を振り返って」と題して講演された。



左が演者の劉偉教授

さらに、教育研修会「上顎欠損症例の再建—形態的、機能的回復—」では形成外科の大慈弥裕之先生(福歯大)、口腔外科の後藤昌昭先生(佐賀大)、補綴の小野高裕先生(阪大院)の3名がそれぞれの立場から講演された。活発な討議のなかで、患者のQOLを考慮した補綴治療の早期着手と複数科のチームアプローチとその緊密な「連携」が必須であり、再建依頼のためには提示する治療



左から大慈弥先生、後藤先生、小野先生

効果のデータが必要であることが強調された。

こうして暑い8月の福岡での顎顔面補綴学会は、熱さ冷めやらぬまま盛況のうちに終演した。

(広報 松山)

支部学術大会報告

九州支部

九州縦断予報の大型台風16号の動向を気にしつつ、残暑厳しい8月28日(土)、佐藤博信大会長(福歯大)のもと、福岡県歯科医師会館において平成16年度九州支部学術大会が開催された。午前一般口演13題、認定医申請ケースプレゼンテーション3題が、午後からは支部総会とシンポジウム、夕方からは生涯学習公開セミナー、夜は懇親会と大変密度の濃いスケジュールであった。

シンポジウムテーマを『補綴治療に必要なチェアサイドでできる顎機能検査とは』とし、4人の先生が講演された。シンポジストであり座長の佐藤博信先生(福歯大)からは、導入として現在日本補綴歯科学会主導で進められている「症型分類」についての概略説明と、クリティカルパスの作成、病態の把握、専門医としての基準といった観点から症型分類の必要性が解説された。

続いて矢谷博文先生(阪大院)からは「顎機能検査の信頼性と妥当性」と題し、プライマリーケアにおける顎機能検査についての講演がなされた。検査を行う際には本当に必要で有用な検査であるかということを常に念頭におき、行う検査が必要な感度と特異性を持ち合わせているかを意識することが必要であるということであった。

3番目の鱒見進一先生(九歯大)からはUCLAなどの質問表を供覧しながら、「質問表の重要性」について講演がなされた。質問表はあらかじめ患者に記入してもらうことで、診療時間の短縮や、大まかな患者の状態の把握、研究用データベースの構築が可能といった利点があるが、それ以外に患者からの言葉をそのまま記入する(narrative recording)ことで術者の予想を越えた因子を見出すことができるといったことが説明された。

最後の築山能大先生(九大院)から「口腔顔面痛の鑑別診断」ということで実際の症例を提示されながら、身体表現性障害・神経因性疼痛についての講演がなされた。問診の重要性、訴えに見

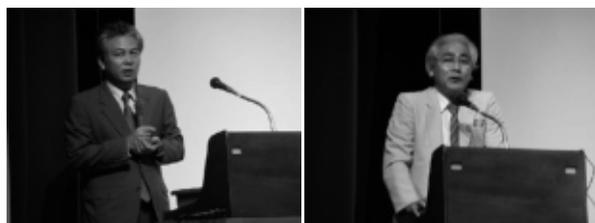
合った病変，知らないことには手を出さない，不可逆的処置の回避が重要であるとのことであった。



左から矢谷先生，鱒見先生，築山先生，佐藤先生

●生涯学習公開セミナー●

支部学術大会と併せて開催された生涯学習公開セミナーでは『下顎オーバーデンチャーのコンセンサス』というテーマで高橋 裕先生（福歯大），長岡英一先生（鹿大院）が講演された。まず高橋先生から「インプラントオーバーデンチャーに関するコンセンサス」ということで，マックギル・コンセンサス・ステートメントなどの紹介などがあつた。そのステートメントでは下顎無歯顎症例では通常の総義歯よりも2本のインプラントを植立し，バーなどのアタッチメントを利用したオーバーデンチャーがファーストチョイスとされていることの解説や，実際に福岡歯科大で行われている即時負荷インプラントオーバーデンチャー症例の紹介がなされた。また長岡先生からは「インプラントを用いない従来型のオーバーデンチャー」に関するお話があり，実際の症例をいくつか示しながら歯冠/歯根長比を改善して歯牙を保存し，歯軸方向に力がかかることで顎堤の保存に非常に有用であることが解説された。従来型のオーバー



高橋先生（左）と長岡先生（右）

デンチャーは費用や全身状態などでインプラントが利用できない症例にとっては，今なお非常に有効な手段であることが再認識された。

なお，来年は9月3日（土），4日（日）に山口県歯科医師会館にて「九州支部・中国・四国支部合同学術大会」を開催することが総会にて報告され，閉会の挨拶では当番校の田中卓男（鹿大院），赤川安正（広大院）両教授から多数の参加を希望する旨の発言があつた。

（広報 諸井）

中国・四国支部

平成16年度日本補綴歯科学会中国・四国支部総会および第30回学術大会（大会長：本田常晴，当番校：徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部咬合管理学）が平成16年9月5日，高知新阪急ホテルで開催された。

中国・四国支部は，支部の各歯科医師会の先生を大会長として，中国・四国の各地で開催されてきたことを特徴としている。今年は四国の高知市での開催であつた。

特別講演Iは，市川哲雄教授（徳大院）を座長として，「生物学的配慮と臨床事実に基づいた口腔リハビリテーション医学を構築するために—バイオメカニクス，バイオロジー，そして臨床疫学へ—」の題名で，窪木拓男教授（岡大院）により行われた。基礎と臨床の両面からの意欲的な素晴らしいご講演であつた。



市川先生（左），窪木先生（右）

特別講演IIとしては，本田常晴先生（第30回学術大会大会長）を座長として，「日本補綴歯科学会中国・四国支部学術大会30年を振り返って」というテーマで，濱田泰三教授（広大院）によ

り、中国・四国支部の歴史が概説され、これからの本支部の指針を示唆するものであった。



本田先生（左）、濱田先生（右）

●生涯学習公開セミナー●

続いて行われた生涯学習公開セミナーは、「顎口腔の美に迫る」というテーマで、石橋寛二教授（岩医大）を座長として、「美肌へのアプローチ」堀 公彦氏（花王（株）スキンケア研究所）、「Bianco e Rosso [健康な歯を模倣するために]」山本尚吾氏（SHOW DENTAL）が講演された。口腔領域の美を求めることにより、健康寿命の延長を目指したライフスタイルを支援する、という石橋教授が期待されていた審美歯科の役割を強力に推進する、興味溢れるセミナーとなった。

以上のような、特別講演、生涯学習公開セミナーと魅力的な企画に加えて、一般の口演発表が5題、ポスター発表が10題の発表があり、それぞれ、活発な議論が行われていた。また、学術大会の前日の9月4日には、認定医ケースプレゼンテーション4題が発表、審査が行われた。

中国・四国支部の伝統的な企画と新しい企画で組み立てられた第30回学術大会は、盛会の内に実りのある学術大会として終了した。

（広報 貞森）

関連学会案内

第20回日本歯科医学会総会

日時：平成16年10月29日（金）～10月31日（日）
会場：パシフィコ横浜
大会長：江藤一洋教授（東京医科歯科大学大学院）

第33回日本顎口腔機能学会学術大会

日時：平成16年11月13日（土）
会場：大阪大学歯学部記念会館
大会長：矢谷博文教授（大阪大学大学院）
特別講演：「顎関節の個体別バイオメカニクスシミュレーション（仮題）」
田中正夫教授（大阪大学大学院基礎工学研究科生体機械科学講座）

連絡先：〒565-0871
大阪府吹田市山田丘1-8
大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座
（日本顎口腔機能学会第33回学術大会準備委員会）
TEL：06-6879-2946
FAX：06-6879-2947
E-mail：tmizumor@dent.osaka-u.ac.jp

次回学術大会案内

第113回日本補綴歯科学会学術大会

開催日：平成17年5月14日（土）、15日（日）
会場：グランキューブ大阪（大阪国際会議場）
大会長：野首孝祠教授（大阪大学大学院）

今後の学術大会案内

第114回日本補綴歯科学会学術大会

開催日：平成17年10月1日（土）、2日（日）
会場：朱鷺メッセ
大会長：河野正司教授（新潟大学大学院）

支部会のご案内

東海支部

開催日：平成16年11月28日（日）
会場：松本歯科大学 図書会館
大会長：五十嵐順正教授（松本歯科大学）
※生涯学習公開セミナーが開催されます

連絡先：〒399-0781

長野県塩尻市広丘郷原 1780
松本歯科大学歯科補綴学第一講座
(担当：酒匂充夫)

TEL：0263-51-2046

FAX：0263-51-2046

E-mail：sakoh@po.mdu.ac.jp

東関東支部

開催日：平成 17 年 3 月 20 日（日）

会 場：水戸プラザホテル

大会長：會田雅啓教授（日本大学松戸歯学部）

連絡先：〒271-8587

千葉県松戸市栄町西 2-870-1
日本大学松戸歯学部歯科補綴学第二講座

(担当：竹林千賀子)

TEL：047-360-9383

FAX：047-360-9382

E-mail：jpbs@masucat.nihon-u.ac.jp

切り取り線

アンケートボックスへ ご投函ください

学術大会に関するご意見

日本補綴歯科学会に対するご意見・ご希望

第 112 回学術大会フォーカス



第 112 回日本補綴歯科学術大会
大会長 豊田 實

第 112 回日本補綴歯科学会学術大会は、平成 16 年 10 月 15（金）～17 日（日）に横須賀市の“横須賀芸術劇場・横須賀市産業交流プラザ”において開催される運びとなりました。ここに、あらためて多大なご協力とご支援をいただいた会員ならびに関連する方々に主管校を代表して、謹んで感謝申し上げます。本学術大会は、近年の目覚

(裏面につづく)

広報委員会に対するご意見・ご希望

アンケートボックスへ ご投函ください

学術大会に関するご意見

日本補綴歯科学会に対するご意見・ご希望

広報委員会に対するご意見・ご希望

切り取り線

しいバイオテクノロジーの進歩に歩調を合わせ、将来の歯科補綴学がどのようなかわりをもつべきかを討論していただくよう、「新しい歯科補綴のパラダイム—生体との接点を求めて—」をメインテーマにさせていただきました。このようなことからメインシンポジウムは、今、話題性の高い再生医療を取り上げ「再生医療と歯科補綴学の接点」について、ディスカッションしていただく予定です。

また、シンポジウム臨床教育は「補綴実技教育の評価を考える」、臨床教育研修は、「補綴臨床でどのような点に過ちを起こしやすいか？」をそれぞれ企画しています。

一方、特別講演は3題を予定しています。特別講演Ⅰは、神奈川歯科大学教授・森實敏夫先生に「日本の常識はなぜ世界に通用しないのか？—臨床医学研究の観点から—」と題して、日本の臨床医学研究の現状についてご講演していただきます。特別講演Ⅱでは、Dr. Terry T. Tanaka (Clinical Professor, University of Southern California, School of Dentistry) をお招きして、補綴治療における咬合についてご講演していただき、さらに、特別講演Ⅲでは、研究教育研修の一環として、睡眠学の創設リーダーであらせられる藍野大学学長・高橋清久先生に「健康的な睡眠とは」の講演をお願いしております。

また研究発表は、口演発表、ポスター発表、国際セッションをあわせて、143題の演題を予定しておりますので、展示会場を含め多数の皆様の参加と活発な学術交流をお願い申し上げます。

横須賀は、ペリーの黒船到来による開港、開国発祥の地。この地から新たな歯科補綴学の門戸が開かれることを期待しております。

学会および広報委員会へのご意見ご要望をお寄せください

日本補綴歯科学会広報委員会

委員長：沖本公繪

副委員長：北川 昇

委員：貞森紳丞，瀨野 徹，松山美和

幹事：諸井亮司

TEL：092-642-6371，FAX：092-642-6374

E-mail：kohoips@dent.kyushu-u.ac.jp

〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

九州大学大学院歯学研究院 口腔機能修復学講座
咀嚼機能制御学分野